



新九郎通信

発行 小田原市栄町 2-13-3 (株) 伊勢治書店 3F ギャラリー新九郎 木下泰徳
 メール配信サービスご希望の方は右記アドレスへお申込みを e-mail:kinoshita@iseji.net

栢山の田に今年も水が入った。毎年の光景だがやっぱり美しい。夜になると蛙の合唱が始まり、散歩道には蛍の群れが現れた。鮎の解禁と共に早朝から賑わう酒匂川。日ごろ忘れていた足元の豊かさに気づかされる季節だ。そして、待ちに待っていた6月。いよいよワールドカップが始まる。日本中が一つになる4年に一度の祭典に熱くなりそうな6月。熱い夏を楽しもう。



新九郎 6月の展覧会のご案内

| | 会期 展覧会名 | 見どころ |
|--|--|--|
|  | 6/4(水)~9(月) アールドヴィーブル「自分らしく生きるⅡ」 | 知的障がいのある子どもから大人までのアート活動の発表。爆発的なパワーと魅力にあふれています。 |
|  | 6/11(水)~16(月) 第1回長山武夫写真展「野生の絆」 | 南極、北極、アフリカとエネルギーに地球を駆け巡り、撮影した野生動物の魅力を紹介 |
|  | 6/13(金)19:00-20:00 ブッタと仏像入門⑥ 最終回 | 講師：廣瀬郁実(仏像ガール)連続講座。今回のみ参加も可参加費¥600 |
|  | 6/18(水)~23(月) 第6回フレンズ絵画展 | 風景画、花、静物等の油彩画、水彩画の展覧会会員24名、約45点、 |
|  | 6/20(金) 新九郎デッサン会 | どなたでもお気軽にどうぞ！18:15-20:45 会費1500円 コスチューム、固定ポーズ |
|  | 6/25(水)~30(月) 第12回神奈川の自費出版フェア | 自費出版本の展示約200点 6/28(土)PM2:00-3:00 講話会：「自費出版」で得られた人生の「功」と「省」 |

近隣・友の会会員の展覧会情報

| 会期・展覧会名 | 会場 |
|--|-------------------------------------|
| 6/4(水)~9(月) 飛鳥盛勇展 | 飛鳥画郎 0465-24-3790 |
| 6/25(水)~30(月) 一線美術会小田原グループ展 | 飛鳥画郎 0465-24-3790 |
| 6/11(水)~16(月)フジカ- MJC フォトサークル夢20周年写真展 | アオキ画郎 1F 0465-22-0825 |
| 6/12(木)~16(月) 山本郁夫展 | アオキ画郎 2F 0465-23-5624 |
| 6/18(木)~21(土) 第12回虹のかけはし展 | アオキ画郎 2F 0465-23-5624 |
| 6/13(金)~24(木) 鈴木隆作陶展 | ギャラリーさざれ石 0463-67-9662 |
| 5/12(月)~6/28(土) 飯室哲也展 | POEM ギャラリー 0465-47-6987 |
| 5/27(火)~6/8(日) 船坂芳助展 | すどう美術館 0465-36-0740 |
| 6/17(火)~7/6(日) すどう美術館セレクション展 | すどう美術館 0465-36-0740 |
| 6/26(木)~7/2(水) 大原京写真展 | アイデムフォトギャラリー 「ソックス」03-3350-1211 |
| 6/1(水)~30(日) 服部賢司展 | NARAYA CAFÉ GALLERY 0460-82-1259 |

特別展「富士と対峙した孤高の画家 佐藤大寛展」

会場：松永記念館 5/28水~6/30月 9:00~17:00(入館16:30)
 6/7(土) 11:00, 14:00. ギャラリートーク (担当学芸員)
 6/22(日) 13:30 講演会「佐藤大寛人と作品」
 学習院大学教授 島尾新 両日共要事前申込
 主催：小田原市 申込先：0465-23-1377 (市郷土文化館)

東海道五十三次 10 丸子宿 (丸子の丁子屋) 5年をかけ、足で歩いたスケッチ紀行 松野光純



ここ丸子は鞠子とも書く。安部川と宇津ノ谷峠との間にあり、東海道では規模の小さい部類に入る。浮世絵で有名なとろろ汁の店は今も健在で、山に囲まれた静かな街道の一角にぎわっている。道路側から見ると、広重の浮世絵の構図とほぼ同じ茅葺屋根の丁子屋があった。外から見た感じ小さな店なのかと中に入ってみると、なんと奥へ奥へと建物が続き、お客さんが行列して順番を待っていた。ここへ来たら「とろろ汁」を食べねばなるまい。丁度昼時だったので、この行列に並んで名物の「とろろ汁」を食べることにした。とろろ汁は「いいじゃん、いいじゃん、うまいじゃん」と言いながら食べるのだそうだ。

思うことなど 横井山 泰



地中海性気候のゴールデンウィークには、実家から三島の個展会場に通った。実家に長々逗留するのは随分と久しぶりで、上京してから初めてかもしれない。縁の薄かった郷里での初めての個展は、学部3年から昨年まで15年の大作17点。気持ちのよい空間になった。僕の言葉を、作品ごとの解説としてファイルにまとめてもらった。(鑑賞者には取っ付きやすいツールであるし、読み物としても面白い) 20年ぶりの友人や恩師、地元の方々と絵を前に話していると、忘れていた制作当時の記憶がよみがえる。

写真は大学院時代の作品。芸祭(学園祭)の模擬店の廃材コンパネに直接描いたものである。当時、本江先生がゼミで「協調性や安定性」「過去の預金通帳」というアメリカ抽象表現主義の作家の言葉を紹介していた。「作家は今までの実績や作品に満足してはいけない、その瞬間に終わる」という内容だった。学部時代からのスタイルが自己模倣であるような気持ちが芽生えていた僕は「自分を変えたい」と思い、拾ったコンパネに1日1枚絵を描く事を決めた。何かが観えた瞬間を作品にしたかったのである。そうして7日間描いた。足し算で絵が出来上がる。という考えに引き算も加わった。

このシリーズは、ほとんど発表しことがない。今回はいい機会だった。普通の絵ではないので、7曲の変な屏風に組んだ。裏に回ると青春の走り書きや、昨年急逝した友人(模擬店店主)の「夕方5じから」という、きたない字が観える設置にした。

大きな絵の空間に長時間佇む方が多い、嬉しいかぎりである。同時開催のエクリュの森では、彫刻家の三宅一樹さん、佐野美術館の山内舞子さんとのトークショーが11日明日である(5月23日現在)。人生はまだまだ続くのである。

平塚市美術館「石田徹也展」 見どころはノート



平塚市美術館で開催中の「石田徹也展」は、神奈川県初の個展という事もあり連日多くの来場者でにぎわっている。いよいよ15日までとなった展覧会の見どころについて、企画された平塚市美術館主査兼学芸員の勝山滋さんにお話を伺った。

Q 今回の企画展の見どころを教えてください。

展覧会の副題は、「ノート—夢のしるし」とあるように、今回の展示では石田がアイデアなどを記したノートやスケッチブック51冊をご遺族からお借りでき初公開しています。石田の言葉を随所に紹介し、制作の過程や思考の軌跡を108点の作品とともにたどる展示になっています。ノートには夢の中の事や日常のこと、作品の下絵など石田の考えやアイデアが詰まっています。作家の言葉で作品が語られているノートは絵の世界を理解する助けになります。ノートは、大学の受験勉強中の平成3年から亡くなる平成17年までと見られ、51冊に約1万2300のカットが描かれています。実際の作品に生かされたのは約550カット、鉛筆、コンテ、水彩などで書かれていました。展覧会では、一部の作品にノートと説明文をセットにして展示し、無理なく作家の意図がわかるようにしました。画集ではわからない実際の作品の大きさ、また細かいところまで丁寧に描き切っているところ等も見てほしいです。

Q 本展覧会では、作品理解のキーワードに『ユーモア』を取り上げていました。

石田は、「失われた10年」と言われるバブル崩壊後の厳しい社会を経験した世代です。しかし作品には深刻さや暗さだけでなく石田独特のユーモアや軽さも感じられます。作品は、学校生活や社会生活がシンボリックに表現され、どの作品にも同じ顔をした男性が繰り返し登場し、石田に似ています。男は、着せ替え人形のようにサラリーマンになったり学生になったり器物と一体化したりします。ノートには「僕の求めているのは悩んでいる自分を見せびらかすのではなくそれを笑い飛ばすユーモアのようなものなのだ。(中略) そうだ、ぼくは他人にとって10万人20万人といった多数の中の一人でしかないのだ。そんなことに落胆するのではなく軽さを感じる取ること、それがユーモアだ」と書かれています。自画像のようでもあります。ほかの誰の顔でも見る人は思わず自分の姿や記憶と重ね合わせてしまうのではないのでしょうか。男の少しうつろな目は、未来まで見通すような印象を受け普遍性を感じさせます。作品世界を体感しにぜひ美術館にお越しください。

Q 今回の展覧会は、全国4館の巡回展ですね。

今回は石田の故郷静岡の県立美術館で共同開催するところを探していることを知り、足利市、平塚市、砺波市が手を挙げ実現しました。担当学芸員は、石田と共有体験を持つ同世代の若い学芸員が担当していることも特徴です。図録も、4館で分担して作成しました。巡回展では、企画の段階からほかの美術館と連携して展覧会を組み立てます。印刷物やパネルなど共有化し制作費用を抑えたり単独ではできない大きな展覧会を低予算で実施できるメリットがあります。自分は日本画が専門ですが、「石田展」の準備をする中で、作品を観ながらどんどん作品の魅力にひかれていきました。各館の学芸員の強みを生かせる共同企画は非常に爽やかです。公式図録は、全国の公立美術館が加盟する美術館連絡協議会の平成25年の「優秀カタログ賞」を受賞しました。

Q 会場には石田展の感想がたくさん掲示されていました。



不思議で理解しがたい「石田徹也作品」が、なぜ現代人に共感を得、反響を呼んでいるのか知りたいというご両親からの要望があって企画しました。会場に石田宛てのメッセージカードを置いたところ、老若男女のたくさんの方が感想を書いてくださり反響の

大きさに驚きました。会場に掲示した他の方の感想を、ぜひ読んでいただきたいと思います。カードは、終了後ご遺族にお渡し致します。

Q 今回の展覧会には中高生や若い家族連れが多く来場しています。

以前日曜美術館で取り上げられたこともあり、開催前からツイッターの反響が77件ありました。「ぶらぶら美術館」放映後は1日100件の反響がありました。チラシは、平塚の中高校のほか茅ヶ崎、藤沢、大磯、二宮など近隣の中学校全員に配布しました。学校教育との連携は大事にしています。美術部や近隣の神明中学校、特別支援級などはよく見に来ます。夏休みはここ毎年「絵本展」を企画しています。子どもたちが気軽に訪れ楽しんでくれています。今まで美術館に来たことの無い人に足を運んでもらえるようこれからも取り組んでいきます。

Q 平塚市美術館は、良い企画展が多いと来場者の方々から大変評価が高いのですが。

平塚美術館の姿勢として、今生きている人に目を向けた企画には力を入れています。市民の税金で運営している施設として、多くの人の満足を得る展示を心がけています。

展覧会は6月15日まで。6月7日(土)午後2時から最後のギャラリートークが予定されています。

絵てがみ折々 —小田原の暮らしの中で—

野地 三恵



狛犬を描くのが好き。

神社の複雑な建物を描いた後のわずかな時間で、葉書やスケッチブックの片隅に狛犬を描き残しておく。その丸みを帯びた線が楽しい。子供を抱えたもの、玉に手を載せたもの、それが犬であったり獅子であったり、どれひとつとして同じものはない。狛犬が立派すぎて描こうとしても手が出なかったときもあるし、描けそうだけれど時間がなくなってしまったときもあって、心残りも多い。

これは寺山神社の狛犬。汗ばむような天気の日根府川に行き、釈迦堂を経て寺山神社を訪ねた。高台から見たJRの赤い鉄橋、初夏の海の色が今でも記憶に新しい。

5月のこと

・宮下圭介—透視するまなざし—

(モンミュゼ沼津・沼津市庄司美術館)

宮下さんとは飯室哲也さんの企画主催になる VISION2011 (ギャラリー新九郎)からのお付き合いだ。信州大学教育学部美術科卒業で、33年間教職のかたわら現代美術家として発表を続けてきた。最初は彫刻から出発し、平面的要素の強い作品を続けるうちに絵画に行きついたようだ。着実な仕事をされてきたと思うが、本人曰く「まだ絵を描き始めてから10年位だからね。」という近作はみずみずしく若さに溢れていた。作家として大震災を見ておかなければとの思いで現地に行った事、制作にまつわるあれこれ、ジャコメッティのこと等々、1時間余語りあい楽しい時間を過ごすことができた。

・本多希枝展 ギャラリー・ユニコン (川崎市)

水彩・アクリルの小品を中心に、小さな人物や動物の顔の彫刻が展示されていた。物は見ずにイメージで創っているそうである。ゾウや犬の頭部は横井山泰氏の作品に似たところがあり興味を持った。今回の訪問は新作を見ることと、小田原市での展覧会開催の実現に向けお気持ちの確認をしておきたかった為である。小田原市出身で安井賞受賞、独立美術協会でも主要作家として活躍しているキャリアの持ち主である。「小田原には殆ど貢献してないから。」と言っていたが、開催については異存がないようだ。若い時は西相美術に出品していたこともあるが、中央に発表するようになってからは小田原の人の目に触れる機会は無い。地縁である小田原市民の皆さん、特に若い世代に見てもらいたい作家である。☎